

# がんの教室

田中 伸哉

⑪

通常がんの再発は手術後2〜3年がピークなので5年たつと一安心となる。診断後5年の生存率は、がん治療の成否を見る指標の一つとなっている。だが、中には再発まで10年以上かかることがある。

先日、乳がんで亡くな

## 再発の原因、がん幹細胞とは

った60代の女性もそうだった。病理解剖をしたところ、がん細胞が全身に見られた。家族に聞くと、13年前に乳がんの手術をした経験があるという。つまり10年以上前のがん

でおり、ある時目が覚めて増殖を始めるのだ。この細胞は治療への抵抗力が強いばかりでなく、目覚めた後は浸潤、転移、増殖の能力がより高い細

胞を無数に作り出すのである。この特別な細胞は「がん幹細胞」と呼ばれ、近年治療対象として注目が集まっている。言ってみれば、マフィアのドン(親

## ある時目覚め、無数に増殖

が転移した上で再発してしまったのだ。

がんの再発を防ぐためには、手術で目に見えるがんを取り除いた後に抗がん剤、放射線といった治療を行い、がん細胞を死滅させる。これらの治療は効果が認められている。しかし、わずかながら1〜2%に治療が効かない「特別な細胞」がい



分)であり、治療によって死んでいるのは子分ばかりなのである。

このがん幹細胞の存在が分かったのは、1997年のことで、白血病で初めて見つけられた。その後、ほぼ全てのがんにはがん幹細胞があることが分かってきた。

がんは治ったと思っても何年もたって再発することがあるから油断ならない。今医学界では、このがん幹細胞の潜んでいる場所を特定して、親分であることの目印を見つけてだして、その弱点を狙う治療法が作られようとしている。

(北大医学部腫瘍病理学教授)